



広報

なはし市民の友

第725号 毎月1回発行
2011年(平成23年)

6月

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2011(平成23)年4月末現在	
総人口	318,637 (2,116)
男	153,717 (1,064)
女	164,920 (1,052)
世帯数	137,046 (1,238)

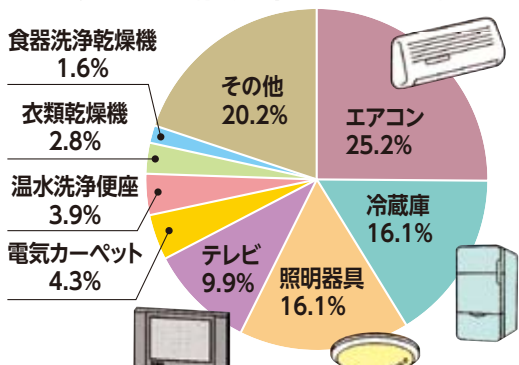
発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市上之屋1丁目2番1号
☎867-0111 ●印刷 丸正印刷(株)

家庭の「電気くい虫」の1位はエアコン。続いて冷蔵庫、照明器具、テレビの順です。この4項目だけで家庭の電力使用量のおよそ7割を占めます。これらを賢く利用することが、省エネにつながります。

また、電化製品を買い換える際には、省エネラベルの表示を比較して、省エネ性能の高い製品を選択しましょう！

一番電力を消費するのは？

家庭における消費電力量ウェイトの比較



出所:資源エネルギー庁 平成16年度 電力需給の概要(平成15年度推定実績)

家庭での「電気くい虫」コレだ！

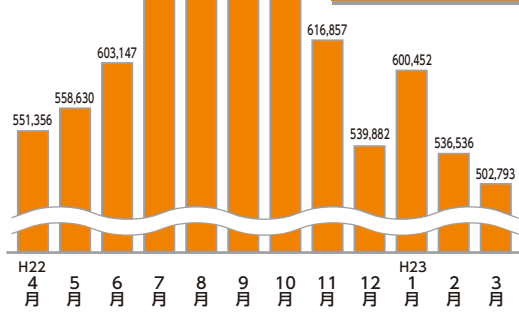
このことを他人事ととらえることなく、私達も、今こそ、省エネについて本気で考える必要があるのではないのでしょうか。

夏場、頻りに利用するエアコンなどの電化製品を賢く利用していますか？正しい知識を持ち、出来ることから省エネに取り組みましょう！



県内の月別電気使用量

(単位:千kwh)



※沖縄電力ホームページより

この表から、夏場に電気使用量が急激に上がることが分かります。これは、冷房のためにエアコン使用が増えるためです。

私たちひとりひとりが少しずつ節電をすることで、CO₂(二酸化炭素)を削減し、地球温暖化防止につながります。

下記の「オススの省エネポイント術」を参考にして、今年の夏から実践しましょう！

電気使用量(エネルギー使用量)のピークは、夏！

環境政策課 ☎951-3392

お問い合せ

この夏実践！オスス省エネ術「エアコン編」

其の1 フィルターは月1回掃除
(年間CO₂29.7kg削減、約700円節約)

※フィルターが目詰まりしたエアコン(2.2kw)と掃除後の比較

フィルターがほこりで、目詰まりすると風量が落ちて、電力をムダに使うことに。

其の2 冷房の温度は28度に設定
(年間CO₂28.2kg削減、約670円節約)

※外気温31度のとき、エアコン(2.2kw)の設定温度を27度から28度上げた場合

暑がりの方へワンポイントアドバイス！

エアコンと同時に扇風機も使うと、冷房効果アップ！設定温度が28度でも、快適に夏を過ごせますよ。是非、お試しください。

其の3 タイマーを上手に使う
(年間CO₂17.5kg削減、約410円節約)

※冷房の使用を1日1時間短縮(28度設定)エアコンをつけっぱなしで寝て、朝寒かったことありませんか？タイマーを利用すれば、気持ちよく朝を迎えられますよ。

※二酸化炭素削減量および光熱費節約金額は、(財)省エネルギーセンター「家庭の省エネ大事典2011年版」を参考にしています。

市民1人ひとりが出来ることから省エネに取り組めば、二酸化炭素の排出を抑制できます。

ご協力宜しくお願いします！

観光産業が主体の那覇市では、今後さらに需要が高まるものと思

現在、次の2つが活動の柱になっています。まず、「障がい関連情報ガイドブック2」の発刊など、情報の共有発信。2つ目は、ユニバーサル社会をめざす活動で、サービス介助士資格認定の県内窓口としての普及活動です。

Q サービス介助士とは

例えば、デパートや金融機関ではお客様の障がいなどの状態に合わせた、最適なサービスの提供が求められています。そのために必要な、介助知識や技術を習得して実践するのが、サービス介助士です。

資格取得者は、全国で約7万5千人、県内では、まだ歴史の浅い資格ですが、すでに900人を超えています。

第7回は、那覇市協働大使の、NPO法人脳文庫代表の喜久里美也子さんです。

Q 脳文庫の活動の概要

平成10年に脳障がい児の保護者を中心に、自助活動のための情報共有の場として活動を始めました。

現在は次の2つが活動の柱になっています。まず、「障がい関連情報ガイドブック2」の発刊など、情報の共有発信。2つ目は、ユニバーサル社会をめざす活動で、サービス介助士資格認定の県内窓口としての普及活動です。



「障がいのある方が、豊かに安心して生活するために必要な情報を掲載。」

●書店もしくは脳文庫事務所 左記 にお求めいただけます。

那覇市ぶんかテラス館3階302号室
☎090-1949-0648 喜久里

互いに思いやる共生の心

これからの、共生社会の実現に向けた取り組みを、無理なく続けていけたらと思っています。

相談窓口・公的サポート等
市町村別情報・おもな県内病院
支援団体情報・訪問サービス
発達障害情報などの知って得情報ほか

また、職員研修に、介助知識・技術を学ぶ、サービス介助セミナーの利用も増えています。

那覇市主催の子ども向けセミナーでは、22年度は小学校2校で、車椅子など、高齢者や障がい者の疑似体験を交えて、「気づき」をテーマにセミナーを行いました。

何らかの障がいを持った方を迎える側が、介助知識に裏付けられて自信を持って対応でき、障がい者も安心して外出できる。そんな体制づくりが、誰にとっても暮らしやすい共生社会の実現につながると思っています。

Q 脳文庫のこれからの活動計画

これまで、障がいに関する情報共有・発信を軸に、互いを思いやるひとづくり、まちづくりに取組んできました。

迎える高齢化社会は、長寿の喜びとともに、加齢に伴う症状と向き合う側面を持っています。健康面の不安や、障がいを持つた方の視点は、まちづくりに欠かせません。

協働さん いらっしゃい!!

市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第7回 NPO法人脳文庫

お問い合わせ
まちづくり協働推進課
☎861-3846

「いい暮らしより 楽しい暮らしを」～人と人が支えあう協働により、心の豊かさを感じるまちを目指して～